

演 習 資 料

＊講師の指示に従って該当ページをご覧ください。

(一社)権利擁護支援プロジェクトともす 作成

<自治会長からの追加情報>

- ⑦ Aさんは女性、災害時要援護者の名簿登録されておらず年齢不明だが80代くらい。
- ⑧ 公営住宅の6階に40年くらい前から住んでいるらしい。
- ⑨ 夫は他界しており、娘は40代～50代くらい。
- ⑩ 自分が自治会に関わるようになってから、自治会の集まりには出てきたことがない。
- ⑪ 以前は、本人と娘で買い物に行っていた。最近は見かけない。
- ⑫ Aさんとは挨拶をするが、娘は、こちらが挨拶をしても母の陰に隠れてこちらをチラリとみるだけで、返答はしない。母を頼って生活している感じがする。
- ⑬ 数か月前に、自治会の「見守り隊」の住民がゴミ出しについて娘に注意したと聞いている。
- ⑭ 隣人から、「『死ね!死ね!』と言うような怒鳴り声が時々聞こえている。多分娘だと思う。」と聞いているので心配だ。
- ⑮ 隣人は、3年前に転入してきた人で、Aさん宅と個人的な付き合いはないとのこと。

<ワーク1-2 通報受付後のワーク>

- ① **ワークシート2** (p.3)「**事実情報の整理シート**」の右側を記入してみましょう。

ワークシート2

事実情報の整理シート

項目	該当項目を○で囲む	サイン	該当項目を○で囲む
本人の状況			
家族の状況			
地域の状況			
その他の状況			
サインを確認した者			
種類			

サインを確認した者

種類

対対応策者による直接目撃・直接確認

空情報提供者からの聞き取り等

写真

図・絵

その他の添付資料 ()

空聞き取りのみ

＜高齢者虐待発生時に

みられるサイン＞

聴き取りの内容から把握したサインについて、該当する項目を○で囲みます。

（サインはすでに記入済です）

具体的な行為、状況

虐待の種類に○/△/×を記入し、空/虐待でない場合は空に記入します

暴力的行為で、痛みを与えたり、身体にあざや外傷を与える行為。
 口で手打ちをする。口つねる。口絡る。口絡る。口打撲。火傷をさせる。口刃物や器物で外傷を与える。
 本人に向けた危険な行為や身体にならぬ影響を与える行為。

本人の状況

家族の状況

地域の状況

その他の状況

サインを確認した者

種類

対対応策者による直接目撃・直接確認

空情報提供者からの聞き取り等

写真

図・絵

その他の添付資料 ()

空聞き取りのみ

サインを確認した者

種類

対対応策者による直接目撃・直接確認

空情報提供者からの聞き取り等

写真

図・絵

その他の添付資料 ()

空聞き取りのみ

＜高齢者虐待の具体的な行為・状況＞

サインから考えられる具体的な行為や状況に☑をします（可能性で考えて☑してOK）。
 一番下の「根拠」の欄の該当する番号に○をつけます。

3. その他 ()

根拠

- ワークシート3** (p.5)「高齢者虐待対応における緊急保護・緊急対応が必要な状況例」を記入してみましょう。

ワークシート3
高齢者虐待対応における緊急保護・緊急対応が必要な状況例

確認状況	☐ 情報提供をうけた（事実は未確認）	☐ 事実の確認後（添付資料□あり □なし）
A. 生命が危ぶまれるような状況が確認される、もしくは予測される		
すでに重大な結果を生じている		
□1頭部外傷（出血など）		
□6脱水症状		
□8急救急搬送		
□11極端に暴行を受ける		
医療・介護		
□1重症の病状		
□2医療や介護の継続が困難と判断される		
□4器物（刃物等）による被害		
□5器物等を投げつけられる		
□6暴力行使		
B. 生活環境が不安定になる		
高齢者虐待		
□1明確な虐待行為がある		
介護者が		
□1「何を」		
□2今まで以上に		
□3今まで以上に		
C. 本人または家族の安全が脅かされる		
本人や家族		
□1うつ状態		
□5家族間の不和		
意向を表す		
D. 虐待が恒常化する		
介護者		
□1指導を受けず		
□3接触や虐待行為		
高齢者虐待		
□1自分自身		
継続的虐待		
□1自宅から		
□3外部との関係		
E. 重大な経済的損失が生じる		
重篤な金銭搾取や財産を使わずに、使えない状態がある		
□1ライフラインの停止 □2食料がない、偏った食事 □3公的保険料の滞納の継続		
□4医療・介護サービス利用料の滞納の継続 □5その他（ ）		
本人の意思に基づかない、本人の利益になるとは思われないような重大な契約行為		
□1預貯金の引き出し等 □2不動産等の名義の書き換えや贈分 □3本人名義の借入金		
□4クレジットカードの不正利用 □5財産上の不当取引の繰り返し（消費者被害等）		

②左側の欄に〇等を記入する

①右側の状況の欄に☑がついたら、左側へ

<ワーク2 事実確認前の協議のワーク>

ワークシート4 (p.7)「事実確認(訪問・面接調査)前の協議シート」を記入してみましょう。

ワークシート4		事実確認(訪問・面接調査)前の協議シート	
ワークシート2「事実情報の整理シート」の記入例をもとに、「考えられる可能性」について記入済みです。 <包括内・庁内情報の収集> 「考えられる可能性」をもとに、どのような包括内・庁内情報を、誰がどうやっていつまでに収集するかを考えます。 <関係者・関係機関からの情報収集> 「考えられる可能性」をもとに、どのような機関から、どのような情報を、誰が、どうやっていつまでに収集するかを考えます。		本人 養護者や他の親族 面接で確認すること <面接で確認すること> 「考えられる可能性」をもとに、面接で確認したいこと(確認すべきこと)を箇条書きにします。 ※安全・安全確認は必須 生じうる危険/危険に対応するためにその場で行う可能性のあること 注意すること・事項 訪問理由 訪問方法/訪問 訪問するメンバー 持っていくもの 緊急時の連絡方法・	

(公社)日本社会福祉士会「8 要 情報収集依頼項目」を参考に(公社)あい権利擁護支援ネットにて作成したものを高齢者権利擁護支援センターで編集(令和5年4月版)を、(一社)権利擁護支援プロジェクトともすにて改定

まず、左側を記入します。

講義、解説の後、
右側を記入します。

事例情報その2

地域包括支援センター内の協議、市と地域包括支援センターとの協議の中で、以下の判断がありました。

- ① 心理的虐待の可能性はある。
- ② 自宅内が不衛生な状況になっているネグレクトの可能性はある。ネグレクトの背景に、セルフ・ネグレクトが生じている可能性がある。
- ③ 本人含めた世帯二人の姿を見ている人がおらず、体調が悪く寝込んでいたり室内で倒れていたりする可能性があり、救急車を呼ぶ等の緊急対応を行うことも考えられる。
- ④ 包括職員が身分証明書や包括のリーフレットの準備もして訪問する。
- ⑤ 包括職員2名で訪問、緊急時は役所に電話連絡。市の担当者は、役所で報告を待つ。
- ⑥ コアメンバー会議は本日、訪問終了後に開催予定。

庁内情報の確認や関係者・関係機関からの聴き取りを行った結果、以下が確認されました。

- ⑦ 民生委員、交番に情報なし。
- ⑧ 地域包括支援センターにも市にも相談履歴はなく、介護申請もされていない。
- ⑨ 住民基本台帳の情報では、Aさん80歳とBさん50歳の2人世帯。
(以下は、訪問前までには情報収集間に合わず、訪問中、訪問後に把握)
- ⑩ 介護保険料、医療保険料の未納はなし。半年前から受診歴なし。
- ⑪ 保健センター関与なし。生活保護受給・相談履歴なし、生活困窮者相談窓口の相談履歴なし。
- ⑫ Bさんの障害者手帳所持なし、相談履歴なし。
- ⑬ 税の滞納なし。
- ⑭ Aさんの国民年金 約5万円／月あり。

訪問

看護師と社会福祉士の2名で訪問しました。

Aさん宅が近くになると鼻をつく臭いがしており、玄関前に立つとマスク越しでも臭うほどでした。玄関横の台所の窓が開いており、「ママ! ダメでしょ! いい加減にしないよ!」と大きな声が聞こえており、在宅していることわかりました。

チャイムを鳴らしたところ、台所窓からBさんと思われる女性が顔を出したのでアプローチを試みました。「こんにちは」「市より参りました」と伝えても視線を合わせることはなく違うところを見ており、戸惑ったような表情でじっと黙っています。再度、社会福祉士が「地域包括支援センターの〇〇と言います。お話聞かせてください。」と声をかけると視線をそらしたまま、小さな声で「誰? 誰?」「知らない、知らない」「知らない人は開けちゃダメ」とつぶやいています。

「ママがダメって言うから」と拒否がありましたが、包括職員は「私達、お母さんとBさんの味方ですよ。市役所の依頼で高齢者のいるお宅に訪問する仕事をしているんです。」「皆さんのお話を聞く仕事をしています。玄関を開けてもらえますか?」と繰り返し説明しました。

職員が機転をきかせて「答えていただいた方に、このシールをお渡ししています」と市のキャラクターのシールをみせたところ、Bさんは興味を示し「それちょうだい」と窓からシールを受け取りました。そして、一度奥で寝ているAさんのところへ行き、何やら話をしてから、ドアを開けて部屋の中に入れてくれました。

奥の部屋に寝ているAさんのところに挨拶に行くと、Aさんはびっくりした様子です。**Aさんが寝ている周りを含めて、室内にはゴミ袋が積みあがっています。**布団から出ている腕や手の甲に赤、青、黒、黄色の内出血痕が見えました。顔色は驚くほど悪く、唇はカサカサしています。

<ワーク3 事実確認のワーク(訪問調査中)>

事実確認中の今の状況を記入したのが、シート5、シート6です。

シート5 (p.9)「事実情報の整理シート」、シート6 (p.11)「高齢者虐待対応における緊急保護・緊急対応が必要な状況例」の記入例を確認します。

事例情報その3

当初の役割分担どおり、看護師は本人Aさんから、社会福祉士はBさんから話を聞きました。

奥の部屋にいた A さんの話・様子

- ① 耳が遠いのか近くで声をかけたところ、「どちら様ですか」とびっくりした様子。
- ② 痩せており、起き上がり動作に時間かかっている。
- ③ 「何ですか?」「帰ってください、いいですから」と質問に対して拒否的。
- ④ 身分証明書を見せて、「市から来ました」ということを説明。バイタルチェックや体の確認を実施。体が細くなったようで、皮膚がカサカサしており唇も渇き気味になっていること確認。
- ⑤ 手の甲や腕に赤いもの、黄色いものや青いものなど幾つもの内出血痕を確認。痛むかを尋ねると「別に…」という返事。内出血痕が出来た原因を尋ねたが、「さあ…」と、黙ってしまう。
- ⑥ 立ち上がりはふらふらしており、移動には支えが必要。
- ⑦ 娘 B さんについて「私がいないとダメなんですよ」「何もできない」「しょうがないんです」と話す。

B さんの話・様子

<B さん自身のこと>

- ① ちらちら母親の方を気にしながら話す様子あり。
- ② 「パパ、死んじゃった。」「ママだけ(兄弟はいない)」
- ③ 買い物は自分が行っていることと、パンや揚げ物・お菓子が好きで食べていると話す。
- ④ 家の中に積み上がっているゴミ袋について、「おばちゃん、怒るから。怖い(から出していない)。」とのこと。
- ⑤ 「暑くて嫌」

<B さんから聞いた A さんのこと>

- ① 最近、(ママは)あまり食べない。
- ② おもらししたり、ご飯をこぼす(だから)、「お仕置き」している(つねっているジェスチャー)。
- ③ 前のように買い物の仕方やゴミの整理の仕方などを教えてくれなくなったとのこと。

<二人で生活していることについて>

- ① ママが教えてくれない。わからないこと、ばかり。
- ② 「叱られるの、やだ」

自宅の状況

- ① 生ごみ・惣菜パックが袋に入った状態でそのまま。
- ② 冬物の衣類が部屋の隅で山となっている。
- ③ 扇風機は見当たらず、エアコンはあるがついておらず、自宅内の気温が高い(リモコンを探す周辺には見当たらない)

- ④ しわしわの洗濯物が少量、室内に干されており、着替えや洗面など最低限の身の回りのことはなんとか行おうとしている様子。
- ⑤ 小銭が大量にあり、袋や缶に入った状態でおいである。

今日の支援

まず、Aさんへの水分摂取を支援しました。さらに、Aさんの心拍数が少なく、皮膚や唇の渇きや立ち上がりがふらふらしていることから、包括職員は、これから病院に行くことを提案しました。Aさんは「自分で行きます。いいです。」「Bと行くから大丈夫ですから。」という返事でしたが、Bさんが「ママ、歩けない。無理無理」と言います。「そしたら、車いす持ってきますよ。Bさん、車いすを押せますか?」と、包括職員が声掛けすると、Bさんからは「知らない知らない、できないよ」という回答です。Aさんはやっと、包括職員介助で行くことを渋々了承しました。

- ① 受診したところ、栄養状態が悪く体重も少ない。新型コロナウイルスやインフルエンザの罹患なし。骨折等もなさそう。医師より、「一泊入院して点滴を受ける方法もある」と提案されるが、Aの「Bを一人にしておけない」「これからも受診するので、帰りたい」という希望より、入院とはならず。
- ② 「胃腸の風邪を引いて二人で寝込んでしまい、家事が出来なくなった。私だけなかなか治らず、だるくてなかなか起きていられない。だんだんと横になっている時間が長くなり、生活が荒れてしまった。」
- ③ 医療機関で長谷川式スケールを実施してもらったところ、15点/30点。ただし、栄養状態が改善してから再検査すれば、数値が上がる可能性がある。脳の検査の結果をみないと、認知症の確定診断はできない。
- ④ 医師の「サービスを受けてしっかりと食事をとるように」という言葉に、Aさんは「わかりました」と回答。
- ⑤ 受診の帰りに、Aさんは「お金をおろしたいので、いいですか?」とATMで現金を引き出し。
- ⑥ 介護保険申請及び在宅措置でヘルパー・デイサービスと配食サービスを入れる話をしたところ、了解される。
- ⑦ 「ありがとうございます、連れてきてもらってよかった」「Bのために、早く元気にならなくては」
- ⑧ (今後の生活の希望)「いつまでも元気でいたい。Bを一人残しては逝けない」、(大切にしていること)「Bがご近所に迷惑をかけないよう、私がしっかりしていきたい」

Aさんが医療機関で検査を受けている間に、Bさんと包括職員は、Aさんが口にしやすい食べ物や飲み物を買いに行きました。買い物に行く際、包括職員はBさんに、「Aさんの体の具合が心配なこと」、「お仕置きするともっと体の具合が悪くなるため、危ないこと」「青黒くなるのは、体の中で血が出ている状態であること」を説明すると、Bさんはとてもびっくりして「お仕置き、危ないのね」「しちゃダメね、わかった」と頷き、「ママ、早く元気になってほしい」と言いました。

二人を家まで送り、その日出せるゴミ出しの支援をして明日も訪問することを約束してから帰庁、コアメンバー会議を実施しました。

<ワーク4 コアメンバー会議のワーク>

ワークシート7 (p.13「第1回 コアメンバー会議録」の□(太枠囲み)部分を記入してみましょう。

演習2

事例情報その4

第1回コアメンバー会議の後、以下の対応を行いました。

翌日の訪問

翌日、約束どおり包括職員2名で訪問しました。Bは訪問をととても喜んでドアを開けてくれました。Aは、前日より顔色が良く、心拍数も上がっていました。特に内出血痕が増えていることもありませんでした。

Aとの面談

<財産状況のアセスメント>

- ① 室内の袋や瓶に入れてあった現金をまとめ、金額を確認。今後の管理の方法について確認したところ、「Bが困らないようにしたい」と話すが、具体的な対応方法については応えられない。
- ② 「今後、介護保険サービスを頼むに当たって、ひと月にどのくらいの金額が使えますか？ 経済状況を教えてください」と聞くと、Aは枕の下に入れてあったA名義、の通帳を出して開きながら「どのくらいかかるのかしら？」と包括職員に問いかける。通帳には厚生遺族年金の振り込みあり、生活には困らない預金額もあることを確認。
- ③ 自分の体調が悪くなってきた時に、まとまった金額を下ろして、Bにお金を渡して買い物をしてきてもらっていたが、現金が底をついてきてしまっていた、とのこと。「昨日引き出しができてよかった」と。
- ④ A名義の通帳以外に、B名義の通帳があることも現認。「Bさんの名義の預金もあるんですね？」と聞くと、「しっかり取っておかないと、と思って」とのこと。

<Bさんの支援についての提案>

- ⑤ 「Bさんは、お母さんの食事の購入など家のことを頑張ってきて立派な娘さんですね。」「お母さんの思いや、今までのがんばりが、Bさんにしっかり伝わっているんですね。」「Bさんが困らないように、AさんのこともBさんのことも整えていきましょう。」「今までAさんご自身も、お母さんとして大変だったことと思います、私たちにお手伝いさせてください。」と伝えると、Aは涙ぐむ。
- ⑥ 「Bさんの生活を手伝ってくれる人をお願いするための検査…知能検査というのですが、必要だと思います、こちらで同行支援したいのですが、いかがですか？」と提案すると、「あの子が学校に行っている頃から、先生からも何度も言われて、私もそう思っていた。主人がどうしても、（検査することを）許してくれなかった」と涙をこぼした。
- ⑦ 「失礼かもしれませんが、Bさんの小学校・中学校時代に成績はいかがでしたか？通知表等がしまっていたりしますか？」と尋ねると、押し入れの上の方のボックスにすべて入っていることを教えてくれた。確認すると、すべて大切に保存してあった。

Bとの面談

- ⑧ 家から出るときは常に両親のどちらかが一緒に、他の人と話してはダメと言われてきたとのこと。
- ⑨ 「Bさんの暮らしのお手伝いをしてくれる人をお願いするための検査のために、病院に行きませんか？ ママは『Bさんに行ってきてほしい』と言っています」と伝えると、「ママが言うなら」という返答。

コアメンバーでの評価

訪問後、役所に立ち寄りコアメンバーで話し合いました。食事が取れるようになったこと、脱水が改善され、低栄養状態も改善の兆しがみられることから、支援が入る事で在宅生活の継続ができるだろうと評価。Bさんの知能検査の結果を待ってから、終結に向けた対応について検討することとしました。

事例状況の変化

最初の通報受付から 2 か月が経ちました。Aさんは要介護2(ラクナ梗塞認知症という診断)となり、ホームヘルプサービスと訪問看護を受けています。入浴のためのデイサービスを提案しましたが、「Bを一人にできない」と言って受け入れることはありませんでした。

サービス利用時の抵抗はなく、職員とのコミュニケーションも良好です。Aさんの栄養状態が改善されたことにより、若干、右手の動きが悪いものの全体の動きはスムーズになり、失禁はほとんどなくなりました。世帯の金銭管理もしっかりと出来ている様子です。長谷川式スケールを実施してみると、23点でした。

Bさんの知能検査の受診を支援し、知的障害福祉担当部署に小学校・中学校の通知表の写しを渡したところ、知的障害福祉担当部署が手帳申請の支援を引継ぎ、愛の手帳3度となりました。

<ヘルパーや訪問看護師が把握している様子>

- ① Aさんの状態改善により、AさんがBさんを激しく叱責する場面が目立ってきました。Bさんが買い物から帰ってくると「黙って外に出ちゃダメでしょ」「こんな無駄なものを買って」「どうして言われたとおりに買ってこないの!」と、激しく長々と叱責します。
- ② Bさんがヘルパーや訪問看護師、包括職員に話しかけていると、「あっちにいきなさい!邪魔になるから!」と言います。
- ③ ヘルパーや訪問看護師が見ていない時にはつねっているようで、Bさんの手の甲や腕には、内出血痕が多数出現、目立つようになりました。
- ④ Bさんの不満は溜まり、Aさんの激しい叱責が続くと「うるさい!死ね!死ね!」と大声で怒鳴り、手足をバタバタさせてそっくり返って泣いています。
- ⑤ あまりに激しく泣いていると、Aさんがつねるか叩くかして、泣き止ませているようです。

<Aさんからの聞き取り>

- ⑥ 「Bは、いろんな人が来るから調子にのってしまっ。迷惑をかけないようにしないと、Bのためにならないから」
- ⑦ 「大声で泣いたりわめいたりして、みっともない。ご近所迷惑」
- ⑧ 「覚えが悪いから、体で教えてないとダメなんです」
- ⑨ 人が出入りするようになったことで、より一層BさんをしつけなければいけないというAさんの意識が強まっているように、包括職員は感じました。
- ⑩ 包括職員が「最近、脳のメカニズムの解明でわかったことなんですけど、お仕置きのように、体に痛みを与えても、『痛い』という記憶が残るだけで、何を叱られたかは記憶できないそうですよ」と伝えると、Aさんは「え?」と驚いた顔をしていました。

<Bさんからの聞き取り>

- ⑪ 「ママだけ、お姉さんたちと話してる!ずるい!」
- ⑫ 「外に行きたい」
- ⑬ 「お仕置きは危ないからダメなのに、私にお仕置きする」

- ⑭ 包括職員が、「お仕置きを我慢できていることは、すごいことですね。Bさんはお母さんに優しいですね」と伝え、嬉しそうにしています。
- ⑮ 「ママの体は良くなっている最中だから、お仕置きはやっぱり危ないんです」と説明すると「わかった。私優しいから、お仕置きしない」と言います。
- ⑯ 「ママに元気になってほしいですか？」と聞くと、「元気になってほしい!」と言います。
- ⑰ 「ママがBさんに『死ね!』って言うことがありますか？」と聞くと、「ママは言わない。パパ(が言っていた)」という返事でした。
- ⑱ 以前よりも人との交流の機会が増えたためか、言葉の表現が豊かになっていると、包括職員は感じました。

コアメンバー会議

事実確認後、高齢福祉課、地域包括支援センターによるコアメンバー会議を開催しました。

<高齢者虐待の状況> Bさんは、Aさんのために買い物や洗濯などを行っている養護者
 ネグレクトは解消、体調不良という緊急性は下がった
 心理的虐待は継続、以前より激しくなっている
 身体的虐待が継続しているかどうかは不明だが、今のようにAさんがBさんを激しく叱責し続けると、再発（暴発）の可能性が高い

<障害者虐待の状況> Aさんは、Bさんの金銭管理を行っている養護者
 身体的虐待、心理的虐待が以前から生じていると思われ、最近は頻度が増していると思われる
 AからBへの障害者虐待として、障害者虐待防止センターへ通報する

<今後の方針>

2人の密着した状況が虐待を生んでいるため、支援の輪を広げる必要があると判断
 今後の支援について虐待対応ケース会議を開催し、「情報共有」と「支援計画作成」を行うことにしました。

<ワーク5 虐待対応ケース会議による見立て>

次のメンバーを召集して虐待対応ケース会議を行っています。これから、このケースの状況についてメンバーと「情報共有」を行い、「支援計画」について具体的に話し合いをします。

メンバー

ケアマネジャー
 ホームヘルパー
 ヘルパー事業所のサービス提供責任者
 訪問看護師
 知的障害福祉担当職員（障害者虐待防止センターを兼務）
 障害の相談支援事業所（Bさんのサービス利用について関わってもらいたい）
 社協の中核機関の担当職員（Bさんの障害年金申請や金銭管理の支援について検討）

ワークシート8 (p.15)「事例分析シート」の左側を確認し、右側を記入しましょう。

ワークシート8		事例分析シート		
現在の虐待の判断状況	緊急性の判断状況	加害者本人の因子	加害者・関係者の因子	被害者・被害の因子
「現在の虐待の判断状況」 「緊急性の判断状況」 は記入済みです。 「ジェノグラム・エコマップでの事例状況のまとめ」 「時系列での事例状況のまとめ」は映写します。		「地域・支援者の強み」の部分だけ、記入してあります。 それ以外の欄を記入してみましょう。		
		I 背景・要因		
		II 強み・ストレngthス		
		III 被害・パターン		
		IV リスク評価		

<ワーク6 虐待対応ケース会議による支援計画立案>

ケース会議では、事例分析を行い、虐待の要因や強みに働きかけていく支援計画を立てよう、と話し合いました。

ワークシート9 (p.17)「課題分析&支援課題整理シート」の下半分を記入してみましょう。

上半分は、ワークシート8の記入例 (p.16) を参考に、すでに記入してあります。

これから3週間後までの支援計画を立てます。

課題分析・支援課題整理シート

(背景・要因/強み)	(虐待の事実)	(結 果)
<本人側の背景・要因> <虐待の事実> <結果>	<どのような虐待があると思われるか>	<生じていること/サインとして現れていること>
上半分は、すでに記入してあります。		
対応が 要因を らえる	支援方針案 いつまでの計画か? 年 月 日	支援内容 支援を実施した 場合に予測される 事態 左欄への対応策 優先順 役割分担 担当者 当面の目標
支援課題 を縦に記 入します	課題ごとに、優先順位を除いて横に記入します。 記入例として、1つの課題だけ、記入済みです。	

(公財)東京都福祉保健財団 高齢者権利擁護支援センター作成 R6年4月版

支援計画は、おおむねその通りに実行することができました。

安全プランのその後

Aさんの「お仕置き」は解消、「どうして」「いい加減にしない」と言う言葉が口をついて出そうになった時(出てしまった時)には、深呼吸をするということが続けられているため、Bさんを長時間叱り続けることは無くなりました。

Bさんが泣きなくなった時は、「台所で水を飲んで、飴を舐めるようにする」というプランは、なかなか成功していません。ただ、AさんがBさんが泣きそうな時点で叱り続けることをストップできるようになったため、「死ね!死ね!」と泣きわめくことは無くなりました。

その後の様子

AさんがBさんを叱ることが完全になくなることはありませんが、表現が柔らかくなり、短くなりました。Aさんは、グループホームや就労継続支援B型の見学をした際、「いろんな人がいるのね」「助けてくれる人もいるのね」と話していました。

Bさんは就労継続支援B型で他者との交流が生まれ、孤立が解消されました。「仕事ができて嬉しい」「みんなと話すことって楽しい」などと話し、年配者の世話を焼こうともしており、「自分にもできることがある」と自信をつけてきています。障害年金の申請も済み、地域福祉権利擁護事業の職員のサポートを受けながら、「自分なりのお金の使い方」を身につけていきます。

Aさんからは「Bが心配でこのまま死にきれない」「一人残していけない」「Bはいずれはどこかに(グループホーム)入るんだろうけど、私にはこの子しかいない」「まだまだ教えられていないこともある、できるだけ一緒にいたい」という矛盾した思いが聞かれました。相談支援事業所は、BさんとAさんのタイミングを見ながら、Bさんのグループホーム利用についても、提案していく予定です。

見守り隊による「今日は可燃ごみの日、赤い袋の日だよ!」などのゴミ出しの声かけも、うまく入っていて、Bさんは「はい!赤い袋の日」と復唱してゴミを捨てに行っています。見守り隊の人と普段から挨拶ができるようになりました。

終結

状況確認後、高齢福祉課、障害者福祉課、地域包括支援センターによる合同コアメンバー会議を開催しました。

<虐待の解消の確認>

Bさんからの「死ね死ね!」と怒鳴る心理的虐待…解消

AさんがBさんをつねる身体的虐待…解消

<要因の解消の確認>

Aさんの「迷惑をかけてはいけない」という思い…Bさんが泣きわめくことも少なくなった。近隣との交流によって薄らいできた

Bさんの孤立…就労継続支援B型の利用により解消

二人きりの生活…AさんBさんそれぞれがサービスを利用

地域との交流…見守り隊が、「ゴミ出しの日だよ」と声をかけるようになり、交流のきっかけが生まれた

コアメンバー会議で、上記のことから、Aさんの高齢者虐待対応を終結することを決定しました。ケアマネジャーも相談支援事業所も安定して世帯に関与していることから、包括的継続的ケアマネジメント支援としても関わらずに終結することとしました。

そして、コアメンバー会議で決定した終結の判断について虐待対応ケース会議で報告を行い、今後の関係者の関わり方や役割分担、今後も高齢者虐待の再発が見られたら通報をすることを確認しました。